

お茶の間学Ⅱ

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

もり 森林をつくらう 脊振の地から

2

佐藤和歌子

父親の勧めに反発も

ける半面、コミュニティが狭く不便で、幼いころから大嫌いだった田舎に暮らすという葛藤。そして何より、NPOのことをよく理解していない私は、すぐに「やってみたい」とは返事ができず「こんな田舎は嫌だ。よそで就職先を見つけれ」と反発してしまいました。

でも就職活動はうまくいきません。一緒に採用試験を受ける人たちが、受験先の企業について話し始めます。なんて勝手な

「今日は娘さんと一緒ね」と山林所有者の問い掛けに父が突然、「この娘に山の情報発信をさせようと思っております」と、まだ承諾もしていない私のことを話し始めます。なんて勝手な

「あなたはその活動をしてくれるならうれしか。でも、今は材木が、安か安かと言っては、山の手入れが無駄のこと言われる。山を持っていても、夢が見られるだろうか」と目に涙を浮かべて話されるのです。

父が勧めた山を守る活動を、家族のように喜んでくださる人がいること。その方が誰にも負けない山に対する誇りを持っておられるにもかかわらず、社会全体にはなかなか伝わらない現状を痛感した気がした私も、何だか悔しくて涙がこぼれてきました。

「NPO法人「森林をつくらう」理事長、佐賀県神埼市

佐藤和歌子さんにNPOの設立を勧めた父の英さん



佐藤和歌子さんにNPOの設立を勧めた父の英さん

「NPO法人「森林をつくらう」理事長、佐賀県神埼市

「NPOは立ち上げて、山のために活動せんか」。私が山の立場から、森林のことを伝える今の仕事を始めたのは、山林所有者から木材を買い入れ、材木に仕上げる「素材生産業」に携わる私の父、英の言葉がきっかけでした。

大学卒業後、就職せずに司法試験を受けていた私。両親と約束していた3年という期限を迎え、これから何をしようかと悩める日々を送っていました。

NPOの活動費も、私の生活全般の費用も全て父が負担するというありがたい環境に身を置